教育企画推進部 News Letter

Curiosity

2026.07.16　Wed.　Vol.21

人文・数理探究類型 英語ポスターセッション

吉井　謙太郎

6 月 13 日（土）に、3 年生特色類型の英語ポスターセッションを開催しました。校外から助言者・ALT の先生方をお招きし、英語で質疑応答を行いました。7 月の英語プレゼンテーションコンテストに向けて、さらに練習を重ねて充実した発表にしたいと各班で意気込みを新たにしました。





＜3 年生の感想より＞

・質問をされてはじめて、どこが伝えきれていなかったのか。や定義・捉え方のズレが明確になり、より伝わりやすい発表づくりのヒントを得られた良い機会になった。7 月の発表では、今回で明らかになった曖昧な定義や疑問点を補足して、初めてきく聴衆にもわかりやすい資料、説明に改善していきたいです。



・専門的な現象だからと説明を省いているところに多くの質問が来て、相手にわかりやすく時間内に収める発表を制作するのは難しいと感じた。また質疑応答で必要な単語をリストアップしておけば、説明がしやすかったのではないかと考えた。7 月に向けて、実験に取り組んだ理由や各実験の目的・方法をわかりやすく図示できるように準備して、分かっていない実験を理解したい。



・自分たちの研究内容を初めて聞く人でも理解しやすいように、専門用語を話す時はゆっくりめに話して、図を指したり、少し説明を付け加えたりした。ポスターや、発表の言葉はなるべくわかりやすい言葉を使った。話す時、聴衆を見ながら話すよう心がけたが、ポスターを見ながら話したり、詰まってメモを見てしまうこともあったので、7 月のプレゼンでは、練習を重ね、聴衆に語りかけるように話せるよう頑張りたい。

各探究授業の報告

5月14日(木) 1年8組 探究入門 「女性研究者」　　廣岡　力

5 月 14 日には、兵庫県立大学より稲木美紀子教授をお招きし、「理系女性研究者のキャリアパスと研究におけるマインドセット」をテーマにご講義いただきました。本講義は、これからの社会を担う生徒たちに、研究者という進路をより身近に感じてもらう



とともに、将来の選択肢の一つとして主体的に考える契機とすることを目的として実施しました。

講義では、研究者に至るまでの多様なキャリアパスや、研究に向き合う際の考え方について具体的な事例を交えてご紹介いただき、生徒にとって将来像を具体的にイメージする貴重な機会となりました。また、稲木先生が実際に取り組まれている最先端の研究内容についてもご解説いただき、大学レベルの研究に触れることで、学問の奥深さや社会とのつながりを実感することができました。

＜生徒振り返りより＞

・博士号までとって、PhD を取得できるようになりたいなと考えるようになりました。大学に進むという漠然としたことしか想像していなかったけど、少し具体的に考えるきっかけになったと思います。

・大学に進みたいという思いはあったが、大学院まで進むのか、博士号を取るのかなど具体的には初めて考えたのでいい機会になった。将来の夢を明確にしてそれに向けたキャリアを積みたいし、探究をしたいと思った。



6月18･25日(木) 1年8組 探究入門 「マシュマロチャレンジ」

6 月 18 日、25 日には、グループミニ探究として「マシュマロチャレンジ」に取り組みました。マシュマロチャレンジとは、マシュマロ、パスタ、テープ、紐といった限られた材料を用いて、制限時間内に 4 人班で最も高いマシュマロタワーを作る探究活動です。

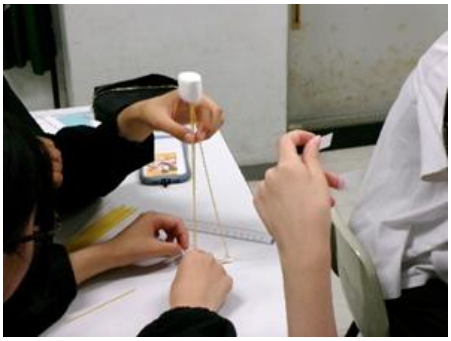
2 日間に分けて実施しましたが、1 回目は最も高いタワーがおよそ 50cm だったのに対し、2 回目には 70cm まで伸ばすことができました。回を重ねる中で、生徒たちはタワーの立て方やパスタの配分などについてさまざまな作戦を考え、工夫して取り組む姿が見られました。



本活動は、生徒が実践的に探究の一連の流れを体験できるよう構成されていますが、振り返りからも探究的な活動に対する学びが深まった様子がうかがえました。

2 学期からは本格的に探究活動がスタートします。今年度はどのような探究テーマが生まれるのか、今から楽しみです。

＜生徒の振り返りより＞



・班で意見を出し合うとき、自分にはない興味深いアイデアが沢山出てきて、非常に好奇心が燻られた。実際に手を動かしてみて、トライアンドエラーを繰り返しながら探究することが、純粋にとても楽しいと感じられた。

・色々試行錯誤してこれがいいんじゃない?こうじゃない?っていうやり取りがすごく楽しかったし今までそういうことをしてこなかったので新しい体験でした

・マシュマロを最後に乗せたらバランスが取れなかったように、1 回やってみないとわからないことが多あなた実感しました。また、自分にはなかったアイデアも班員が出してくれたことによって自分の視野を広げられました。



6 月 25 日(木)1 年 1～7 組 理数探究基礎 1 学期の授業感想 戸塚 剛

1 年生の理数探究基礎の感想からは、「探究とは何か」を学ぶだけでなく、探究を進めるために必要な

考え方や技術を身につけることができた一学期だったことが伝わってきました。

特に多く見られたのは、テーマ設定や研究計画の難しさに関する声です。「問題を見つけることが難しかった」「実現可能性まで考える必要があった」「準備や計画の大切さが分かった」など、探究活動の奥深さを実感したようです。また、データ分析や統計の学習を通して、客観的な根拠に基づいて考察することの重要性も学びました。さらに、論文の調べ方やプレゼンテーションの作り方について学び、「相手に分かりやすく伝える力」の必要性にも気づいていました。感想の中で特に印象的だったのは、仲間との協働に関する記述です。「話し合うことで新しい視点が得られた」「一人では思いつかないアイデアが生まれた」といった声が多く見られ、探究活動を通して協働することの価値を実感していました。

一学期を通して、生徒たちは研究計画、データ分析、文献調査、発表方法などの基礎を学びました。来年度の本格的な探究活動に向けた大きな土台づくりができた一学期だったと感じます。



6 月 30 日(火)2年 1～7 組
総合的な探究の時間　1 学期の授業感想

戸塚　剛

一学期最後の総合的な探究の時間を終え、生徒たちの感想からは、探究活動の楽しさと難しさの両方を実感している様子が伝わってきました。特に多く見られたのは、テーマ設定や研究計画の難しさに関する声です。「テーマを決めるのが難しかった」「調査方法や計画を考える中で課題が見つかった」など、探究は問いを立てるだけでなく、研究の進め方を考えることも重要であると学んでいました。一方で、「班で話し合う中で方向性が見えてきた」「興味のあることを仲間と探究するのが楽しい」といった前向きな感想も多く見られました。また、AI を活用する班からは、「AI の回答をそのまま信じるのではなく、



自分たちで考えることが大切だと分かった」という気づきもありました。感想全体を通して印象的だったのは、「不安」と「期待」が共存していることです。「本当にうまくいくか心配」という声がある一方で、「夏休みに研究を進めたい」「二学期の実験が楽しみ」といった意欲的な声も多く見られました。二学期の本格的な調査・実験を通して、さらに研究が深まることを期待しています。

6月19･26日(金)2年8組　探究 A

近藤　由里香



1 学期の授業のまとめとして、英語で読んだ論文の要約を班ごとに発表しました。3 分間の発表後には質疑応答の時間を設けましたが、クラスメイトや ALT からの鋭い質問に、時には悩みながら、一生懸命に答えていました。また、1 学期最後の授業では、自分たちの発表動画を観ながら振り返りを行いました。客観的に自分を見ることで、新たな気づきを得たという声が多くありました。2 学期には、「自分の探究テーマ」についての発表を予定しています。

特別寄稿

Apa khabar?　From Malaysia

Apa khabar?（マレー語で How are you?）

勝野　啓

第 1 話「世界から日本へ。マレーシアの優秀な高校生たちが、本気で日本を目指す理由」

こんにちは。2026 年 3 月まで長田高校で勤務していた、勝野啓（かつのあきら）といいます。教育企

画推進部でSSHの担当をしたり、卓球部の顧問をしたり、物理を教えていたりしていました。この度は、通信のスペースを一部お借りし、私が今何をしているか紹介させていただきます。のんびりとおつきあいください。

みんなは、日本から約5,000キロ離れた東南アジアの国・マレーシアに、「本気で日本の大学への留学を目指して、死に物狂いで勉強している同世代」がいることを知っていますか？実は、日本とマレーシアの政府は、40年以上前から協力して留学プロジェクトを行っています。私が今働いているのは、マレーシアの最高学府・マラヤ大学の中にある「AAJ（日本文化研究館）」という特別な予備教育学校です。日本の学校は「小学校6年・中学校3年・高校3年」ですよね。でも、マレーシアでは小学校を卒業すると、「中等学校（Secondary School）」という5年制の学校に通います。日本でいう「中学校と高校が合体した5年間」を同じ学校で過ごすイメージです。そして、この5年間の最後（17歳のとき）に、全員が『SPM』という人生をかけた全国統一の学力テストを受けます。このテストの成績によって国費留学生として選抜され、私が教えている「AAJ（日本留学特別コース）」に入学することになります。現在、1学年約50名の学生たちが在籍していますが、彼らは日本の大学に入るための1年半にわたる過酷な「予備教育」に、まさに全力を注いでいます。

着任式の様子



大学内のサル



この留学プロジェクトは、今から45年前の1981年、当時のマレーシアのマハティール首相が発表した「東方政策（ルックイースト・ポリシー）」という歴史的な国家プロジェクトが始まりです。「欧米ではなく、急速に大発展を遂げた日本から、働くバイタリティや技術、知識を学ぼう！ 国を強くするために、優秀な若者を日本へ送るんだ！」という熱い想いから始まりました。これに日本の文部科学省も協力し、日本の高校の先生たちが現地に派遣されて指導を行う仕組みができ、私もその一員としてここで物理を教えています。

学生たちの目標は、日本の大学の工学部に入学し、最先端の技術を学んでマレーシアの未来を支えるリーダーになることです。日本にいると気づきにくいけれど、世界には「日本で学びたい！」と人生をかけて挑戦している同世代がたくさんいます。マレーシアの熱い風を、この通信を通して少しでも感じてもらえると嬉しいです。

また次回でお会いしましょう。Jumpa lagi!Boleh!

人文・数理探究類型
英語プレゼンコンテスト

日時：７月１７日（金）１３：３０受付
場所：うはらホール（JR住吉近く）
今回は例年のピフレホール（新長田）が使用できないために、うはらホールで行うことになりました。７９回生３年生類型クラスの生徒がこれまで取り組んできた探究の成果を英語でプレゼンします。どなたでも参加できますので、是非足を運んでください。

編集後記

忙しかった１学期が終了し、待望の夏休みがやってきます。日ごろやりたかったけどなかなか時間が取れずにいたことをやれる絶好のチャンスです。ぜひ様々なことに挑戦し、自分の興味関心の幅を広げてください。１年生は自らの探究のテーマを見つけるきっかけに、２年生は探究活動をさらに前に進めていける貴重な期間です。９月には一回り成長した諸君らに会えることを楽しみにしています。